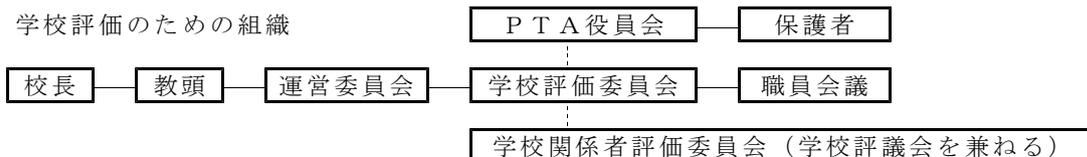


令和6年度学校評価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

月	実施計画	月	実施計画
4	重点目標・具体的方策の確認 評価基準の決定	10	アンケートの実施 (保護者対象・生徒対象)
5	前年度の評価結果と課題及び今年度の重点目標等の公表 (P T A 総会時)	1	学校関係者評価委員会の開催
		3	評価結果と課題の確認 来年度計画策定

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な進路情報の発信ときめ細かな面接指導により、個々の進路実現に向けて、高い志を持ちながら努力する生徒を育成する。 S S H 事業による教科「課題研究」を柱とした教育活動を推進することで、生徒の主体的・協働的な学びを充実させ、国際社会に貢献できる人材を育成する。 部活動や生徒会行事に積極的に参加させ、心身ともに健康で社会性に富んだ若人を育成する。 既存の組織を活用しながら、業務改善に向けた取組を行い、多忙化の解消に努める。 教育のデジタル化や「学校の新しい生活様式」に合わせた教育環境に対応するよう努める。 		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
P T A 活動 (総務部)	① P T A 活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> P T A 諸会議の報告事項の再検討 各種委員と広報委員の活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動の内容を保護者に知らせる方法の再検討をし、興味をもって学校と連携して生徒の教育に携わることができる環境を作る。
学習指導 (教務部)	① 基礎学力の定着と応用力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の興味関心を喚起し、深い学びを促す授業実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に沿った評価方法を具体的に定めるとともに、ICT を活用した授業改善を行う。
	② 授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> 指導法や教材活用法、学びを深めるための授業形態について教員相互の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学ぶ学習機会を充実させ、I C T を活用することにより教授法や教材開発に努める。
進路指導 (進路指導部)	① 進路意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「進路だより」の定期的な発行 「進路研究」により進路意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路研究」として学問内容や学部・学科の研究を行い、よりよい進路選択ができるようにする。
	② 進路情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体への効果的進路情報発信 個々人に対応した面接指導実施ときめ細やかな進路情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度、形式を変更した進路検討会のさらなる充実を図り、個別懇談会で保護者とよりよい連携がとれるようにする
	③ 校内課題・実力テストの活用	<ul style="list-style-type: none"> 校内テストの事前学習と事後復習の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 校内テスト内容の教科ごとの検討機会を増やし、生徒の事前学習・事後復習への指導を充実させる。
生徒指導 (生徒指導部)	① 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻数の減少 爽やかな身だしなみを推奨 職員間の共通理解 	<ul style="list-style-type: none"> 不注意遅刻の減少。 内容の明確化と約束事の共有を図ることで、全職員による組織的な対応を目指す。 職員及び関係分掌や学年間の連携を強める。
	② 登下校時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全意識の向上と事故の減少 緊急情報等の情報提供 自己の安全意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車安全利用など法令の理解を図るとともに、自己の安全管理に対する意識を向上させる。 緊急情報、不審者情報を適切に伝達する。
	③ 道徳心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルの向上 公共の場でのマナーの向上 	<ul style="list-style-type: none"> 集会や学校行事などの機会を利用して意識の向上を図るとともに、個別対応を大切にする。 事例を含めた具体的な対応を心掛ける。
	④ 防災意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の対応方法の理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の対応の確認を行う。 各種防災事業や地域と連携する。
生徒会・学校行事 (生徒会部)	① 生徒会活動の活性化と生徒会行事の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的な活動の尊重 職員、保護者の共通理解 ボランティア活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度からの課題の引継ぎを確実にし、自発的に企画の改善、立案や議論ができるようにする。 代議員会を重視し、全校生徒の共通理解が得られるようにする。 各行事において美化、安全面等についても、配慮できるように、自覚を促す。 職員、保護者への連絡や協力のもと、安全に学校行事を実施する。 ボランティア活動の充実を図る。
	② 部活動の持続的運営	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自主性、自発性の促進 部活動ガイドラインの遵守 職員間の負担の公平化 部活動の再編 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動ガイドラインについて、遵守の徹底をさらにお願していく。 全職員への連絡の徹底と H P を活用した保護者への情報発信を行う。 持続的運営に向けて、顧問の持ち方、部活動の再編について、引き続き検討を行う。
図書指導 (図書研修部)	① 図書館の有効利用と蔵書の充実	<ul style="list-style-type: none"> 図書館報や図書館だよりを通じて図書館の魅力を周知する。 蔵書を充実させる。 教科との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 新規購入図書等の紹介を各クラスに掲示する。 生徒の興味・関心のある図書を充実させる。 授業利用に求められる配架の工夫や図書の収集を行う。
	② 委員会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的工夫やアイデアの委員会活動への反映 	<ul style="list-style-type: none"> 従来の活動についても生徒自身のアイデアや工夫を発言しやすいようにし、実現を図る。
	③ 現職研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業参観週間の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業参観週間に他分掌と連携し、より充実したものを旨とする。

情報 (教務部)	①情報機器管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器の整理整頓 情報機器の利用規程・利用マニュアルの作成 I C T機器の利用促進 	<ul style="list-style-type: none"> 情報機器リストや利用マニュアルの更新を行う。 点検の機械を増やし、より細やかな管理体制を築く。 I C T機器の利用促進のための研修を実施する。
保健指導 (保健部)	①感染症対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> 継続的な感染症予防への啓発活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自らが感染症予防(手洗い、換気の励行など)に努めるようにさせる。
	②健康管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「保健だより」の定期発行だけでなく、季節時事に応じた健康問題や留意すべき内容にもふれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の健康状態を正しく認識し、健康の自己管理ができるようにさせる。
	③清掃活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの減量化、分別の徹底清掃活動を充実させ、教育環境の整備を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミの分別、持ち帰り、リサイクルの呼びかけをし、教育環境を整えることに努める。毎日10分間の清掃を充実させる。
教育相談 (教育相談部)	①問題を抱えた生徒の早期発見と相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> 学年団と連携し、問題を抱えた生徒の早期発見と、保護者も含めた相談の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談室だよりを定期的に発行したり、相談室内を整理したりすることで、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気を作る。 担任会や学年会からの生徒情報をこまめに整理し、言動等で気になる生徒を早めに気づけるようにする。
	②教員間の情報共有	<ul style="list-style-type: none"> 支援が必要な生徒の情報とその対応について、研修会やプリント配付により、教員間で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめ不登校対策委員会の記載項目を検査し、教員間でより情報を共有しやすい形をつくる。 生徒に関わる事項をテーマにした相談室だよりなどを利用して、情報や対応について周知する。
国際交流 (総務部)	①海外生徒との交流を通じた国際理解	<ul style="list-style-type: none"> 同世代の海外の学生とのふれあいの場を提供し、世界が抱える問題について考える機会を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の若者と交流することで、現代の日本と世界が抱えるさまざまな問題に対し理解を深める。 オンライン等も広く利用して、海外の学生との交流の機会を増やす。
S S H開発 (SSH開発部)	①S S 科目の充実	<ul style="list-style-type: none"> エージェンシーや資質能力の向上を目指したS S 科目のカリキュラム開発及びマトリックス等を作成し、教科連携・教科横断的にS S 科目を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教務部や情報研修部、各教科会及び学校マネジメントプロジェクトやS S 科目担当者会議との連携を図る。また、探究系のカリキュラム開発も重点的に取り組む。
	②課題研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教科「課題研究」における課題研究の指導法及び評価法の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科会や学年会と連携し、一層の組織的な指導体制を確立すると共に、パフォーマンス評価の充実を図る。
1年生指導 (第1学年)	①基礎的な生活習慣・学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 各H Rや集会を通して、基礎的な生活習慣・学習習慣の重要性を理解させる。 定期考査や行事後の振り返り活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒面談、生活実態調査、定期考査の結果を基に具体的なアドバイスを行う。 2年生以降の探究・文・理系の選択のために、各教科の学習を主体的に学ぶようにさせる。
	②目標「質実剛健な人になる」のもと、何事も主体的に取り組み姿勢を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 心身ともに健康に、規律ある集団行動をすることができるように指導する。 主体的な進路選択に向けて、学校からの情報提供を継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業をしっかりと受けることを基本に、部活動、行事その他活動に主体的に取り組むようにサポートする。 学年通信を毎学期発行し、目標に対して前向きに進めるようにアドバイスを図る。
2年生指導 (第2学年)	①未来を生きるための地盤となる力を育む	<ul style="list-style-type: none"> 集団行動を通し、集団生活における自己の役割について考え、規律的・自律的に考えて行動できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行を学校生活前半の集大成と位置づけ、集団生活における個々の役割を考えさせる。 日常生活や学校行事の際に、集団の中での生活を意識させる指導をする。
	②自己の将来像の模索と進路設計	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査や面談を実施する。 進路検討会や進路L Tで生徒向けの進路行事を実施し、進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を実施して進路意識の確認を行うとともに、面談を通して将来像や進路設計に関して助言を行う。 学年会や進路検討会を通して教科・進路指導部・学年団の連携を図り、多角的な指導を行う。
3年生指導 (第3学年)	①揺るがぬ未来をつかませる	<ul style="list-style-type: none"> 生活実態調査や担任面談、考査や模試の結果をもとに学習・生活習慣を確立させる。 職員間の情報共有や保護者との連絡、相談をこまめに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が学習の基礎基本となることを意識させながら、学習習慣の確立を促す。 様々な行事や部活動との切り替えができるよう促す。
	②最高学年としての自覚と実践	<ul style="list-style-type: none"> L Tや学年集会、面談を通して、意識づけを行う。 行事や部活動をやりきらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年としての自覚を持たせ、責任ある自発的行動がとれるように促す。 学校生活のすべてが生徒の心身の成長に繋がることを意識して指導を行う。
学校関係者評価を実施する 主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> 学習指導における授業の充実について 進路指導における進路意識の向上について 生徒指導における道徳心の育成について 生徒会・学校行事における学校行事の充実について いじめの把握といじめ不登校対策委員会の活動について 在校時間状況の確認による勤務時間の管理について 	